

市民経済委員会行政視察報告書

令和4年(2022年)8月31日

つくば市議会議長 小久保貴史様

市民経済委員長 木村修寿
(公印省略)

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施したので、報告します。

記

1 視察期間

令和4年(2022年)7月13日(水)から令和4年7月15日(金)まで

2 視察先及び視察事項

(1) 岩手県盛岡市

もりおかの食と農バリューアップアクションプランについて

(2) 岩手県八幡平市

ワーケーションの取組について

(3) 宮城県石巻市

東日本大震災に関する経済支援について

事業者支援、市民支援の取組について

3 視察目的

本委員会所管に係る上記事項について調査研究し、本市市民経済行政の発展に寄与する。

4 参加者 計10名(委員7名、議長、議会事務局(随行)2名)

委員長 木村修寿

副委員長 高野文男

委員 川久保皆実、川村直子、神谷大蔵、ヘイズジョン、塩田尚

議長 小久保貴史

議会事務局 浅野公彦、佐藤啓一

5 研修内容

(1) 岩手県盛岡市 【7月13日（水）説明：農林部農政課食と農の連携推進室】 「もりおか食と農バリューアップアクションプランについて」

盛岡市では、農業と第2次・第3次産業との連携を強化し、盛岡産の農畜産物の高付加価値化と販路拡大を推進し、更なる認知度向上や利用促進・消費拡大を図り、農家所得の向上（儲かる農業）や食関連産業の活性化を目指し、平成29年度に「もりおかの食と農バリューアップ推進戦略」を策定した。各事業に取り組んでいく中で実現したいことを3つの段階（フェーズ）で定めている。消費者・事業者の認知度アップから消費拡大を目指すフェーズ1、「食と農」でもりおかの魅力向上を目指すフェーズ2、盛岡への来訪者・新規就農者・食に関わる担い手の増加を目指すフェーズ3とし、現在はフェーズ2となっている。食と農のバリューアップ実現のため、基本戦略を踏まえ、「食と農をきっかけにした盛岡産農産物の魅力発信」を含む10項目のアクションプランを定めて取組を進めている。

令和3年度には、畑のお手伝いプロジェクトや会員限定のお知らせなどを行うファンクラブ運営などの基盤強化等支援、PR冊子の制作やテレビや公式インスタグラム等を活用したPR事業、駅ビルでのマルシェ開催などにより愛着醸成イベント等を実施している。これら以外にも、産地で森林資源やキノコについて深掘りするツアーなど「食と農×その他地域資源」の体験プログラム、コロナ禍での新しい生活様式に対応した食イベント、セミナー開催や商品開発等への補助を行う6次産業化等支援を実施している。また、令和4年度には、生産者と異業種とのマッチング、ブランディングのサポート、販路拡大等に係る支援等を進めている。



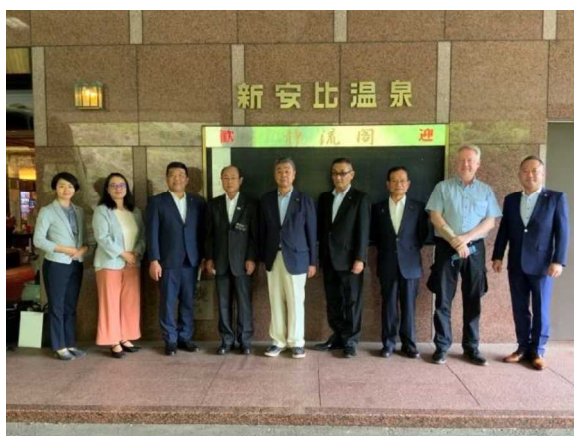
(2) 岩手県八幡平市

【7月14日（木）説明：（株）八幡平DMO、新安比温泉静流閣】
「ワーケーションの取組について」

八幡平市では、令和元年にワーケーション自治体協議会の設立・加盟に賛同し、同協議会が設立し運営する日本テレワーク協会の賛助会員となった。令和2年には市内観光事業者等で組織する八幡平市観光協議会を設立し、その中にワーケーション部会を立ち上げ、株式会社八幡平 DMO*を事務局とし、ワーケーションに関する各事業者の取組を地域内で共有、推進する仕組みを進めている。

令和2年に環境省事業のモニターツアーを実施した。このツアーがフリーランスの方に好評であり、その後、定期的にワーケーションウィークという事業が行われている。また、滞在先の関係者へのインタビューやどんな滞在ができるかの紹介といった生の声を意識したホームページを作成し、情報発信をしている。さらに、地熱発電や循環型まちづくりなどを学ぶ研修プログラムがあったが、これをワーケーションと結びつけ、企業向けのラーニングワーケーションを展開している。そのほか、滞在中の移動手段を確保する「グルチャリ」というプロジェクトも行われている。

現地視察をした静流閣では、事業再構築補助金を活用して、ワーケーションに対応できる環境を整備し、一部の客室をワーケーションルームに改修して、コワーキングスペースを設置した。ワーケーションでの訪問者と課題を抱えた地元企業を繋げ、新たなビジネスを創出する場を提供する「ビジネス創出型ワーケーション」をテーマにしたサービスを提供している。



*DMO(観光地域づくり法人) : Destination Management/Marketing Organization

(3) 宮城県石巻市

【7月15日（金）説明：産業部商工課、産業部水産課、産業農林課、福祉部生活再建支援室】

「東日本大震災に関する経済支援について
事業者支援、市民支援の取組について」

事業者支援については、中小企業支援分野では、平成23年度から国の補助事業の申請をしなかった事業者等に対し被災施設の建替などを支援する市独自支援事業を実施した。関係者からの要望が多かったため、平成26年度からアパート等にも対象施設を拡大した。水産分野では、新型コロナウイルス感染拡大による消費縮小などを受け、漁業分野では海洋環境保全や担い手確保などの事業を、水産加工業分野では放射能検査体制構築による安全性の証明や販路拡大・販売促進に向けた事業などを実施している。農業分野では、国・県の補助事業を活用した復興支援事業を行い、海没地域の除塩、盛り土による復旧、遠隔操作による水管理システムの構築などを実施した。震災による生産年齢人口減少への対応や創造的復興の実現のため、平成26年度から香川県の生産者による技術的支援を受けオリーブ試験栽培を進め、平成31年度に加工施設を建設し、令和3年には市内の農業組合法人等に事業継承しオリーブの製品化を実現した。

市民支援については、自立再建が進む中、石巻市被災者自立再建促進プログラムを策定し、再建方法が決められない方への支援を進めた。このプログラム開始後、再建方法が決定した方にも資金的に実現できないケースが多数存在したため、災害危険区域以外の被災者で、り災判定が半壊以上の方を対象とした被災者再建事業者補助金など様々な経済支援を実施した。また、様々な課題を抱えた被災者を支援するため、伴走型被災者支援事業や被災者自立支援事業を行っている。



【行政視察所感欄】

市民経済委員会は、1日目には岩手県盛岡市の「もりおかの食と農バリューアップアクションプランについて」、2日目は岩手県八幡平市の「ワーケーションの取組について」、3日目は宮城県石巻市の「東日本大震災に関する経済支援について」、研修を行いました。

盛岡市は、人口約29万人の中核都市であり、わんこそば・じゃじゃ麺・冷麺は盛岡三大麺としても有名です。農業と食関連産業の活性化を目指し、「もりおかの食と農バリューアップ推進戦略」を策定し、盛岡産農産物の魅力向上に努めています。商品開発等への補助する6次産業化支援事業を行うなど、食と農をベースとした地域活性化を図っています。「食と農をきっかけにした盛岡産農産物の魅力発信」を含むアクションプランの取組は大変参考になりました。

八幡平市は、十和田八幡平国立公園内に位置し、八幡沼をはじめとした湖沼や湿原が点在し、温泉も多く、ハイキングや秋の紅葉としても有名です。八幡平市の宿泊施設「新安比温泉静流閣」では、ワーケーションに対応するため、国の事業再構築補助金を活用し、客室棟を改修し、ビジネス創出型ワーケーションを提供できるように整備しました。また、ワーケーションを実施するために必要な体験コンテンツ等のプログラムを通して、ワーケーションを楽しむことができる環境を提供しています。宿泊施設での事業再構築補助金を活用した取組は参考になりました。

石巻市は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災で多くの尊い生命が失われ甚大な被害に見舞われました。地域の復旧・復興を図るため、中小企業者に対し施設等の復旧を支援する取組や、被災者自立再建促進プログラムを策定し市民の生活を支援する取組など様々な取組を実施しました。事業はおおむね完了していますが、一刻も早い復旧・復興を願いたいと思いました。被災者自立再建促進プログラムや市民への様々な支援については大変参考となるものでした。

今回の研修において学び得ましたことを参考に、本市の行政運営の発展に取り組んでまいりたいと思います。

市民経済委員長 木村 修寿